

で固めたものですが、よく見ると周辺にゴムチップが飛び散っています。

韓国の大学が地面のホコリなどを分析したところ、ゴムチップが敷かれた公園はそうでない公園に比べ、癌のリスクが10倍高いことがわかりました。ゴムチップ舗装も人工芝と同様、子どもの未来を脅かしているのです。

地面をプラスチックや合成ゴムで覆うことは、もうやめるべきでしょう。

- ※1 鎌田素之「蛍光染色法による人工芝由来のマイクロプラスチックの環境負荷量の検討」『EICA』2022.
- ※2 <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0160412022005906>
- ※3 <https://iwaponline.com/wst/article/87/9/2159/94206/Occurrence-and-risk-assessment-of-PAHs-from>
- ※4 <https://youtu.be/Y5o3J7uy4Tk>
- ※5 伊達公子著『コートサーフェス研究 - 砂入り人工芝ではトップテニスプレーヤーは育たない -』東洋館出版社, 2021.



## 「東京農工大の変わりだねサークル」

### ミミズコンポスト管理局 & のこすまいと

ごみ・環境ビジョン 21 運営委員 井上真紀子



私は、これまでも編集後記などで書いてきたように虫が好きで、生ごみを土に埋めればミミズやダンゴムシに、コンポストを使えばそこに集まるミズアブに、つい愛情を注いでしまう変わりものです。そんな趣味には共感してくれる人もいなくてさみしい思いをしていますが、ある日、Instagramでミミズやウジ（アメリカミズアブの幼虫）を利用したコンポストに取り組んでいる東京農工大の学生ゼミナールがあることがわかりました。いるじゃないですか、同好の士が。しかも若者ですよ♪

6月に、久しぶりに彼らのインスタを見てみたら、折よく月曜に「ミミズコンポスト管理局&のこすまいと 合同企画 【農工大から広げるいのちの輪～食品の流れを知り、自分たちに何ができるか考えよう】」という公開イベントがあることがわかりました。

農工大農学部は府中市にあり、広大なキャンパスの半分以上が畑や厩舎で、大木の緑に包まれた恵まれた環境です。我が家からは自転車で10分ほど。

会場は学生生協の建物の一室で、20名ほどの学生と取材の女性が1人。私は明らかに場違いな感じが、「公開」だもの、堂々と参加することにしました。

まずは「ミミズコンポスト管理局」の活動紹介。発足は2019年。ミミズとウジを使い、学食から出る生ごみを堆肥にしています。ウジはミミズが苦手とする油分を多く含む食品を分解することができるそう。

2023年秋から、近くの3ヶ所の保育園にミミズコンポストを設置。最初に設置したキャンパスの一角にあるみのり保育園では、園児たちがミミズを「アンドレ」と呼んでかわいがっているのだった。なんでアンドレ?(笑)でも、たまに飼っているウズラに餌として与えちゃうそうで、こどもってホント楽しいですねー。

直近の研究活動としては、ミミズの種類の同定・家庭用コンポストの検討・ウジコンポストの運用と改良・育苗の評価のための大豆栽培試験…など。夏が暑すぎてミミズが弱ってしまうのが最大の課題だそうです。

今回、合同企画したもうひとつの団体が「のこすまいと」。2020年設立で、食品ロス削減を目標に活動しています。

最近の学内でのイベントのひとつが「モッタナイト」。余りものの食材をみんなで持ち寄って調理し、楽しく食べる会で、写真を見たら、なかなかおしゃれなパーティです。学祭では、隣の国分寺市の農家から規格外のニンジンを買取り、ニンジンもちを作って販売し、大好評だったそう。他にも、最近では生協で余った食材で簡単なお弁当を作り、午後から格安で販売したところ、昼を食べ損ねたり夕飯にしたいという学生に喜ばれた、と。

後半は、ワークショップで4,5人ずつに分かれて話をしました。自己紹介で、生ごみの堆肥化だけでなくごみ問題に深く関わるようになった30年以上前の話をすると、学生たちは話の中の「東京都でも、多摩地域のごみは海ではなく奥多摩の美しい谷を埋立て、そこに暮らす人を苦しめていると知ったので…」という話に「反対運動までしたんですか?」とくいついてきてたのです。知らないんですね、彼らが生まれる10年以上も前のできごとですから。こんな奇特な若者たちに向けて、ごみ問題に何十年と取り組んできた私たちが出前授業でもできないかな?と思えた一日でした。

